

令和7年度 青森県立八戸西高等学校 スポーツ科学科3学年

特別授業「野外活動(キャンプ)実習・トランポリン体験学習」

実施年月日: 令和7年6月30日(月)～7月2日(水)

実施場所: 三戸郡南部町(名川チェリリン村)、本校グラウンド、BOUNXI TRAMPOLINE PARK

概要: スポーツ科学科の生徒は、将来、野外活動の指導者としてキャンプカウンセラーおよびディレクターの立場となることを想定した実習である。従って、キャンプ実習の目的は、生徒がキャンプの知識・技術・態度を身につけるだけでなく、キャンプの指導法、管理運営も探求する実習である。今年度も、熊の出没情報が多かったため実施可能な範囲でキャンプ実習を行った。また、臨時体験学習として「トランポリン体験実習」を行った。



スポーツ科学科生徒の感想

小笠原 千恵(三条中学校出身・陸上競技部)

私がキャンプ実習で学んだことは、火おこしの時に松ぼっくりがよく燃えることです。ぱっと見燃えなさそうですがちゃんと燃えることを知りました。テントを張るのも1人でできるようになったので、またキャンプに行きたいと思いました。夜ご飯のカレーを作った時に、ご飯がうまく炊けなくて火加減の難しさを学びました。また、初めて白玉を粉から作りました。水を入れすぎて最初ドロドロだったけど、他のグループから粉を少しもらい、グループのみんなで知恵を絞って完成させることができました。みんなで力を合わせて作ったご飯は、いつものご飯よりも何倍も美味しく感じました。キャンプをして一番の思い出になりました。そして親の偉大さを感じたので感謝を伝えたいと思いました。

小笠原 彩(田子中学校出身・ソフトボール部)

私がキャンプ実習で学んだことは、火おこしです。火おこしをする前は小さい木につけてから大きい木に移って火がつくと思っていたけど、実際やってみて、新聞紙や松ボックリなどの燃えやすいものを使えば火がつきやすいことを学ぶことができました。夜ご飯ではカレーを作った時に火加減を調節するのが難しくご飯をうまく炊くことができなくてご飯が焦げてしまったりしたので火加減の調節の難しさを学びました。フルーツポンチは白玉を入れて作って白玉を作る時に水の量を調節しながらうまく作ることができました。みんなで工夫して一生懸命作ったごはんは格別に美味しかったです。そしてご飯を作ったりしてくれている親の存在が大きいことを感じたので親に感謝したいと思いました。

二又 楓太(名川中学校出身・陸上競技部)

私たちは、2日間南部町の名川地区にある名川チェリリン村へキャンプ実習に行ってきました。私たちが、特に苦労したことは火おこしです。火おこしをするために準備されていた道具・材料は、大きな薪・小さな薪・マッチ・ライターでした。私たちは火を起すことを甘く考えていて、大きな薪に火をつけたら燃え広がると思っていました。しかし、現実には甘くなく大きな薪に火をつけても燃え広がることはありませんでした。小さな薪から燃やし始めるという考えが適切としてもう一度火おこしに挑戦してみました。小さな薪から燃やすことで火がつきやすく、徐々に燃え広がっていき火おこしに成功しました。また、火力を保つために重要だったことは定期的に薪と薪の間に空気を送り込むことでした。このように、1人で火おこしをするのは初心者には難しいので、班のみんなと役割を分担して火おこしました。率先して火の中に薪をいれたり適切な角度から空気を送り込んだりと、班の中で協調性がみられ仲間の大切さに改めて気づくことができました。キャンプ実習はこれまでの実習より仲間の大切さに気づくことができた実習でした。3年間最後の実習となってしまいましたが、キャンプ実習を通して学んだことを大切に将来に繋げていきたいと思いました。

梅田 大洋(五戸中学校出身・バスケットボール部)

私たちは名川チェリリン村に2日間キャンプ実習に行きました。学んだことは、飯盒を使ってご飯を炊くことです。飯盒に米を洗って洗った米を飯盒に入れ蓋をします。その後に着火剤を下に置き、小枝や火のつきやすいものを上に被せ空気が入るようにし、火が強くなってきたら大きな薪を足していく作業をし、米を入れた飯盒を燃えた薪の上に置いてあるレンガの上に置き米を炊きました。少し焦げてしまったのですが美味しく食べることができました。それにキャンプ実習では仲間との協力が大切だと思いました。仲間との協力をすることで作業がはやくおわることができました。このキャンプ実習で学んだことを今後にかわしていきたいです。